

平成25年4月1日

発行人 長野県民生児童委員協議会  
会長 百瀬 弘

編集人 編集委員会  
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号  
(長野県社会福祉協議会内)

特集

児童委員と主任児童委員の  
活動を考える

Contents

特集／児童委員と主任児童委員の活動を考える

基調講演 ..... 2

グループ討議 ..... 4

民児協訪問／松川村 ..... 6

上田市川西地区 ..... 7

交通・災害遺児見舞金／就職激励金のご案内 ..... 8

特集

# 児童委員と主任児童委員の活動を考える

去る2月28日、「子育て支援を語るつどい」を開催し、地域から孤立した子育て家庭を発見し、適切な支援につなぐ児童委員・主任児童委員の役割や連携について情報交換を行いました。基調講演の要約と、グループ討議の内容を紹介します。

## 児童相談所から見えてくる 県内の子育て・家庭



県松本児童相談所 所長  
鎌 妙子氏

児童相談所は、様々な子どもの相談に対応しています。最近では児童虐待の対応機関と捉えられがちですが、基本的には広く子育ての相談にのる支援機関です。

### 1 相談状況の推移

- ・ 県内の相談件数は、ここ数年4千件から、5千件で推移している。
- ・ 児童人口は平成23年には昭和50年に比べて63%に減少しているが、逆に養護相談は増加傾向。養護相談は、子供自身の問題というより保護者、家庭環境に要因がある。家族の養育力の問題が表に出てきていると考えられる。
- ・ 虐待相談は増加しており平成23年は全国では6万7千件に達している（県内は767件）

### 2 相談の中から感じる点…

- ①不安定就労による家計の困窮  
お金の使い道の優先順位が逆転し、そこから借金、家族間のトラブルが発生。ネグレクト(子育ての放棄・無視)を抱えている家庭は、経済的に困窮していることが多い。
- ②不安定な精神の問題を抱えた家庭  
安定した人間関係を築くことが困難な事から、病院にかかっても長続きせず。転々とし、適切な支援につながらないままに、精神的に不安定な家庭を抱えている。

た家庭がある。

- ③親族、地域とつながりがいい・拒む社会全体として、他人と親しく関わったり助け合うことを避ける傾向が見える。DV、虐待など暴力的な環境が加わると、子どもにとって大きな影響を与える。子ども自身が信頼関係を築くことが難しく、地域や社会で孤立傾向がみられる。

※児童相談所で支援する家族は、いくつかが問題が重複している。

### 3 どんな支援・環境が必要か

- ・ 家族の中で解決していくのは難しいため、公的支援につなげる。関係機関のネットワークが大切。
- ・ 子育て中の母親に対する、子育て情報が氾濫している。「こうでなければいけない」というプレッシャーが強く、子育てに対する不安となっている。
- ・ 公的な相談・支援機関(一時預かり・ファミリーサポートなど)が各地で整えられてきている。以前であれば近所・親族に預けていたが、地域社会の変化に応じて、きめ細かに子育てを支えていくことが求められている。
- ・ 若い人に批判的な目を向けがちであるが、現在の母親達は困難な孤立した中で子育てをしているということを認識し、「大変だね」「よくやっているね」「困っていることはない?」と温かい応援の気持ちを伝えられれば支援となる。
- ・ 児童委員には地域の身近なパイプ役として安心した子育てをできるよう情報提供をお願いしたい。

## スクールカウンセラーから見えた 悩める児童生徒の現状



長野市松代地区  
主任児童委員  
竹内 勝昭氏

### 1 学校での教師・子どもの現状

- ・ 学校教師の問題：教師の心の悩みが増加している。うつ病・適応障害
- ・ 子どものもつ問題：発達障害(二次障害)が不登校につながる。発達障害者関連の裁判事例から考えると社会が、そうした子どもを受け止められていない。どうにもならないものに対して精神障害者、排除しようとする風潮がある。
- ・ 不登校児童生徒の増加：平成20年まで増加、その後減少してきている。現在スクールカウンセラーは全校に配置。小6から中学にかけ不登校が増加するため、小中のギャップを少なくしようとしている。

### 2 自殺者の増加も子どもへ影響

- ・ 自殺の増加  
日本全体で毎年3万人超。長野県では約500人(昨年は480人位)。未成年は12名(長野県・毎月1人の割合)自殺がおきるとマスメディアがセンセーショナルに取り上げることにより、子どもの自殺が増える。
- ・ 心の悩みで保健室利用は、10年間で大幅に増加。40%が心の悩み。うつ傾向の子どもは中1では1割(北海道大学調査)、小学生も10人に1人(筑波大学調査)。社会の影響が小学生にまで広



▲松本勤労者福祉センターで約120名出席

## 3

## 3 カウンセリングの現場では

・自殺者は精神障害が多く(75%)、うつ病が半数を占める。自殺予防のため校外における連携、児童委員・主任児童委員も含め、校外の様々な関係機関が連携するということが重要。

がっている。

・自殺者は精神障害が多く(75%)、うつ病が半数を占める。自殺予防のため校外における連携、児童委員・主任児童委員も含め、校外の様々な関係機関が連携するということが重要。

・不登校をはじめ様々なケースがある。

・家庭の影響により傷つき、心を痛めているケースが多い。

・リストカットなど自傷行為が増えている。

・マスクの着用は風邪の予防ではなく、人とのコミュニケーションをカットす

る目的に使用している場合がある。マスクなしでは外出できない子もいる。部活での勝負へのこだわりの陰で泣いている子どもたちもいる。教育的配慮がなされないでそのまま不登校になっていくケースもある。

## 4

## 4 地域でのネットワークを

・長野県の考え：県でも幼児期における保育と小中学校との連携、保健・福祉分野と教育分野との連携など首長部局を巻き込んだ地域一体の取り組みが必要である、としている。

・地域でのプロジェクト：松代中学校では「明日も早くいききたい学校プロジェクト」を実施。地域を巻き込み不登校が劇的に減ったというデータがある。

・スクールソーシャルワーカー(SSW)：子どもが抱える問題に対して学校と家庭、地域の橋渡しをし、地域の関係機関・者の連携をとる。連携する関係者のなかには児童委員・主任児童委員も含まれる。

## こんにちは赤ちゃん事業

## —子育て支援との関わり—



松本市民生委員 児童委員協議会

主任児童委員 会委員長

五味 富士 氏

## 1

## 1 事業の経緯と訪問の方法

松本市の児童委員は534名、そのうち主任児童委員は48名です。主任児童委員総会で「こんにちは赤ちゃん事業」を市から提案され、地域の子ども達を知るためにも、

ぜひ市で始めて欲しいと児童委員側からお願いをしました。平成21年6月から「こんにちは赤ちゃん事業」を開始し、訪問の際には子育て支援事業・市の育児相談・児童センターのつどいの広場・ファミリーサポート・家庭支援などの案内を行います。

〔訪問者〕担当地区の児童委員と主任児童委員2人1組で訪問

〔訪問方法〕

- ・事前に訪問予定日と訪問者の連絡先を書いた「訪問連絡票」を家庭に配布し、訪問日時を調整し訪問。
- ・「訪問連絡票」と同時に「お母さんの気持ち質問票」を同封し、事前に記入してもらい訪問時に回収。
- ・訪問時留守の場合は「不在連絡票」を投函し、再度訪問日時を調整。

## 〔訪問後の対応〕

- ・「訪問カード」(母親の状況、養育環境の状況、子どもの状況)への記入。
- ・緊急性のある場合は直ちに市のこども福祉課へ連絡。保健師が訪問。
- ・訪問後の地区民児協定例会で、「訪問カード」や「お母さんの気持ち質問票」をこども福祉課へ渡す。

## 2 訪問結果のアンケート

乳幼児がいる家庭の90%を訪問していますが、アンケートを取ると「身近に相談できる方がいて助かる」「訪問を続けて欲しい」という方が9割以上です。

子育て支援事業(未就園児対象)の案内を赤ちゃん事業訪問時にするので、大変喜ばれています。

## 3 子育て支援活動について

松本市は35地区あり、それぞれで補助金を活用しながら児童委員・主任児童委員がかわり、子育て支援活動をがんばっている。子育て支援ネットワークをつくり、1年に6回合同研修を行っています。(おもちゃ博物館、子ども城視察など)

今後は、子育て支援などに出て来られないお母さん方への支援を地区ごとと考えています。児童委員と協力し再度訪問し、未就園児に対する支援の活動を紹介しています。

地区児童委員と主任児童委員が連携できていないということをよく聞きますが、松本市の連携がうまくいくきっかけはこんにちは赤ちゃん事業でした。地区児童委員と主任児童委員が同行し各戸を回ることで良い連携ができたと思います。

また松本市民児協が運営にかかわっている児童養護施設「松本児童園」には、主任児童委員が当番で毎週ボランティアに入っており、そのこども児童委員との連携がうまくいっています。



## 特集 児童委員と主任児童委員の活動を考える

グループ討議で、リーダーを県民児協副会長伊藤篤志さんがつとめた9班の様子を要約してお伝えします。

### グループ討議から

#### 9班メンバー

- 伊藤篤志さん  
(長野市・児童委員・県民児協副会長)
- 村田和良さん  
(上田市・児童委員)
- 戸堀勝利さん  
(東御市・児童委員)
- 山田明香さん  
(下諏訪町・主任児童委員)
- 中村幸司さん  
(小諸市・主任児童委員)
- 鹿田厚子さん  
(千曲市・主任児童委員)

#### 小諸市では「なんでも相談室」を開設。上田市では定例会に校長が出席。

中村―小諸市は人口約4万4千人で、小学校6・中学校2校、8名の主任児童委員がいます。2期目が1名で、私も含め7名が1期目です。2011年1月佐久市の専門学校生殺人事件の関係者が中学生だったことがあり、主任児童委員としてどういった活動をしたらいいのか、まず各学校を訪問。児童相談所や警察の話聞き、各機関の役割や、主任児童委員としてどういった関わりができるのか検討協議しました。

伊藤―学校とは日ごろどう連携していますか。

中村―1年2回生徒指導の教員と懇談をしています。この2年間校長先生とも意見交換してきました。今年の1月24日の懇談には2人の主任児童委員から、夜間パトロールによる中学生への指導や、支援学級の生徒の進路事例について、具体的な発表をもらいました。初めてこちらから学校へ投げかけて、学校との連携がステップアップできたと思います。

伊藤―なるほどそれはいいですね。  
中村―昨年6月から市のコミュニティセ

ンターで「子育てなんでも相談」を月1回、2人態勢でやりはじめたのですが、9回行い3件の相談がありました。PRは市報や新聞などでしたのですが、情報をどう伝えるかが課題。委員は教員経験者や企業退職者など人材は豊富ですが、あくまで「つなぐ」役に徹するスタンスでやっています。

伊藤―中身を定例会で他の児童委員と共有できるといいですね。

中村―この活動をきっかけに、児童委員が子どものことは主任児童委員に相談できる態勢ができるようになったと思います。また1人の主任児童委員の気づきがあったら、主任児童委員連絡会で話し合い、公園の遊具の老朽化調査を民児協が行い、市の子どもの安全対策委員会に提示し対応をお願いしました。

伊藤―上田市の村田さんのところではどうですか。

村田―私は主任児童委員がなにをどう活動しているのかわからないというのが正直なところです。ですが、民児協の定例会には必ず区域の小中学校の校長が教頭、公立保育園の園長が出席します。

伊藤―えっ、毎回校長が定例会に来るのですか。

村田―はい。旧上田市では基本的には校長が必ず来ます。学校の行事や子どもの様子について話し、その場で委員と必要な事項は意見交換できるのです。

伊藤―ぜひ主任児童委員さんにも3期は続けてほしいですね。

主任児童委員の役割が見えない。仕事と委員との両立が難しい。

鹿田―1千曲市は人口が約6万人、主任児童委員は14名います。ほとんど1期目か2期目ですね。また一部の地域では小学

校1校に1人ずつ配置できないところもあります。

伊藤―ぜひ主任児童委員を増やすよう要望を出すといいですね。

鹿田―私は1期目ですが、もっとも困ることは、自分に専門性がないので、学校との懇談で意見を求められても答えようがない。学校側が主任児童委員に何を求めているのかもわかりません。それに、仕事をもちながら1期だけ引き受けようという方も多いので、主任児童委員の役割自体を自分たちが把握していないのです。家庭もあるので、できることから少しずつやる。地域の見守り隊や育成会になるべく参加するなど地道な活動をしています。

伊藤―学校から情報はもらえますか。

鹿田―2年2回の「不登校・いじめ懇談会」、児童委員と学校の懇談会に加わるなどしますが、子どもが外で遊ばない時代なので、なかなか子どものことを把握することがむずかしいです。それに学校側も個人情報の問題があり、その場で問題を聞くだけで、書類はもらえません。ですから、スタッフとして地域の「子育て広場」に年10回ほど携わり未就園児にかかわっています。また市全体でやっている子育て広場では「子育て青少年部会」の児童委員がお手伝いをしながら、子どもやお母さんの顔を把握するようにしています。伊藤―ぜひ主任児童委員さんにも3期は続けてほしいですね。

鹿田―そうはいっても、若手だと仕事をやりながら続けるのは難しいです。研修も仕事を休んで来なければなりませんから。

山田―私も真剣にやろうと思えば、腰掛だけでは確かに難しいと感じます。私は下諏訪町で主任児童委員をやっていますが、小学校が2校、中学校が2校なのに、主任児童委員は3人。私は1期目で、ほか2人は2期目です。ぜひもう1人増やしてほしいです。一応それぞれ担当の学校はあるのですが、すべての学校へ3人で訪問して情報を共有しています。今は大きな問題はありません。研修で全国に行くと、主任児童委員の役割が見えてきて、小学校より下の子どもたちとの関わりが大切だとわかるのですが、実際は子育てサロンのようなところに参加するくらいで。小諸市の中村さんのように「主任児童委員としてなにかします」ということはできません。3人も仕事をもちたいですから、役割をしっかりと果たそうと考えると1人は専属でできる人選が必要なんです。全国では情報誌などを出しているところもあると聞きますが、そこまで手が回りません。

#### 交流会や研修会の効果は大きい。専門家とのつなぎ役を自覚する。

山田―諏訪地域では6市町村での交流会をやっています。今年には原村・富士見町・下諏訪町の委員同士の交流会はよかったです。

伊藤―定期的に学校へ行っていますか。

山田―参観日に行つて全クラスを回った後、教頭先生と意見交換しています。主任児童委員は学校と他の委員との小さなパイプ役ではないかと思えます。学校からの情報は表面的なものしかないので、逆に児童委員からの情報を学校へ聞くなどのつなぐ役割ができればと。一般の人たちは私たちの存在を知りません。まずは「主任児童委員がいます」といかに伝



◀ グループ討議中の9班メンバー



えていくかが一番かなあと 생각합니다。最近、町に「ポケット」という子育て支援センターがで、「ポケット」という年配者のボランティアがいます。異世代のふれあいができる施設なので、これに関われればいいなあと考えています。

伊藤「児童委員も関わればいいですよな。」

山田「はい。主任児童委員にとつて、子育て支援の専門家からの研修があるといいですね。知って専門的なことはつなげ

ばいい。そして私たちは家庭の支援ができればいいと思います。また他の児童委員とつながりを密にして、かざりだけの委員にはならないようにしたいです。

伊藤「子どもの件は、主任児童委員だけにまかせることも多いですね。」

山田「大変だねってよく言われますが、千曲市の鹿田さんのいうように、専門性があるわけではないので、児童委員さんたちと一線と同じ立場なのです。「つなげる」役割と考えています。

**主任児童委員の役割がわからない。活動を通じて広がり。**

戸堀「東御市は人口約3万人で民生児童委員は81名、5地区あって主任児童委員は各1人ずつ。小学校5校、中学2校です。私は児童委員で、個人的には子育ての感覚がわからないのです。主任児童委員は「すすく広場」や児童クラブなどに顔を出しているとは思いますが、私は子どもとの接点がありません。

伊藤「先生との交流はやっていきますか。」

戸堀「年2回の懇談会があります。学校からの情報提示はあって、なにかあれば直接担当の委員が担当の先生と個々に対応しています。家庭との接点はありません。定例会でケース検討会がありますし、情報はいただきますが、正直言って主任児童委員がなにをしているかわかっていません。」

山田「主任児童委員だけで地域全体の子育て支援をやるには広すぎますから、積極的に児童委員に関わってほしいです。」

伊藤「私は長野市の松代地区で小学校6校・中学校1校に児童委員は46名。そのうち主任児童委員は3名です。何期か続

けてやっている人が多いですね。長野市でも児童委員や主任児童委員を継続していただくようお願いしています。市全体で79名の主任児童委員がいます。「週1回は学校へ行ってください」と呼びかけ、子育て支援にかかわる機関、育成会や警察にも顔を出してもらおうようお願いしています。でも学校はなかなか情報をオープンにしない。いいことも悪いことも流してもらえない。だからこそ主任児童委員の出番で、なんとか学校に突っ込んで行ってもらいたい。」

村田「赤ちゃんや未就園児への家庭訪問という形をとってほしいのですがどこかに来てもらう「ひろば」のような支援では出て来られない人がいます。地域の受け皿は自治会や区ですが、自治会に入っていない家庭もある。児童委員が入り込めない。それをどうしたらいいかが課題ですね。」

伊藤「行政は情報をつかんでいてもなかなか動いてくれない。緊急時に委員が立ち会って、警察に入ってもらったという事例がありました。児童委員が長野市ではこれには赤ちゃん運動にタッチしてないので、幼児期の問題ある家庭に介入するのは難しい。」

山田「下諏訪町では児童委員が新生児の家庭に町からの誕生祝い金を届けています。たいていは温かい交流があるようですが、なかには事務的な対応だけのお母さんもいると聞いています。」

**研修を開くことで、民生児童委員と主任児童委員の役割と連携を。**

鹿田「地域に主任児童委員の存在を知ってもらおう以前に、児童委員の中で知って

もらうことが大事だと思いました。村田「実は上田で地区の主任児童委員が中心になって他の委員と一緒に子育てひろばを運営していたことがありました。」

でも、市に大きなブラザができたら今までの子育てひろばも市の直轄のひろばになってしまい、委員の出番が失われてしまった。その後委員が交代になったら、携わらないことがあたりまえになってしまったという事例もありました。確かに委員も忙しくて仕事を増やしたくないということはあると思いますが、中心になる活動がないと情報も入ってこないし広がりがいい。

伊藤「そうですね。ですから、やはりきめ細かな連携や研修が必要ですね。」

鹿田「今回のようにグループ討議をたっぷり1時間半とれる研修はいいです。」

中村「やはり主任児童委員の役割をぜひ研修してほしいですね。」

伊藤「あやふやな気持ちで活動するのではなく、自分の位置をしっかりとって活動することが大事ですね。」

戸堀「上田市のように毎回定例会に校長が来てくれればいいですね。」

村田「研修では学校の現状を知りたいですね。」

山田「学校の先生との研修会もいいかもしません。」

伊藤「わかりました。今回のような主任児童委員と児童委員との情報交換は初めてでした。こうした情報交換が必要ですね。主任児童委員や児童委員の役割を理解することが大切です。学校、警察など地域での連携も重要だとわかりました。ぜひ各地域に戻ってこのつどいを生かして活躍をお願いしたいと思います。」

訪問



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協  
だより



松川村民生児童委員協議会



▲全国民生委員児童委員連合会からの表彰状を持つ  
榛葉会長を中心に笑顔の皆さん。

伝統を守りながら発展する村らしい活動。  
保育園児との交流も活発に。

稲作を中心とする古くからの農村地帯でありながら、村外からの移住者数は県内トップクラス。全域が安曇野の平坦地におさまり、美しい田園風景が広がっているのが松川村です。明治22年の村制施行以来一度の合併もなく、一貫して増え続けている人口が1万人を超えたのも誇り。17地区に22人の民生児童委員と、2人の主任児童委員が活動しています。3期目になる榛葉武夫会長が開口一番に紹介するのは、村内にふたつある保育園でのボランティア活動で

す。クリスマスにはサンタクロースに扮した委員が園児ひとりひとりにお菓子を入れたプレゼントを渡します。豆まきでは赤鬼、青鬼、福の神に扮装。鬼が「悪い子はいないか」「先生の言うことをきかない子はいないか」と声を上げながら豆をまくと、本気で泣き出してしまつ子も。数分で鬼は退散し、交代して登場した福の神が子どもたちに「大丈夫だよ」と優しく接します。

繭玉作りでは、作り方を教えるだけでなく、地域の伝統行事がもつ意味を説明するのも大切な役割です。「保育園児に分かるように話すのは結構難しい」と、準備に手間はかかりますが、三世代同居が減る中で祖父母世代の知恵を伝承する貴重な機会となっております。これに12月の餅つきを加えると、少なくとも年に5回の保育園行事のお手伝いが定着しています。子育てしやすい環境づくりは村の重要な方針で、民児協の活動もこの方針に沿った独自性の高いものになっているようです。

ひとり暮らし高齢者の安否確認は、お弁当の配食を兼ねて行っています。社協で作るお弁当を月に一度、希望する方に届け、手渡しする際に言葉

を交わしながら様子をうかがいます。以前は毎回調整していた定例会の日程を固定したことで、各自が年間スケジュールに組み込めるようになります。欠席者がほとんどゼロになりました。定例会の後はお茶を飲みながら交流する慣習も続いており、意見交換の場になっています。「現役世代の委員も多いので配慮しなければ」と榛葉会長。上條美代子さん、奥原巨将さん、ふたりの副会長との連携も抜群です。農業と安曇野の風景を守りながら、新しい風を受け入れて発展する松川村らしい民児協の皆さんです。



▲園児も楽しみにしている保育園でのボランティア活動。繭玉作り。

### 上田市川西地区民生児童委員協議会



▲バレンタインデーの定例会、チョコをつまみながら和気あいあいと。前列真ん中が会長の増田さん、左が副の斎藤さん

**約150人の住民が小学校で活躍。学校と連携して子ども達を見守る。**

千曲川を挟んだ上田市の北西部、日当たりがよく日照率の高い川西地区は、人口約7200人、約2700世帯。高齢化率は28.2%(23年末)。古くからの花卉栽培などの準農業地帯です。会長の増田宗彦さんは「マツタケの産地をはじめ、山際は昔から住民が住む地区で、今では息子たちが中心部に独立し、高齢者のみの世帯が目立ってきた」といいます。国道沿いにはアパートができ、近所のつきあいがうすれつつあったり、JAの店舗が統合されたことで、買い物弱者が出始めたなどの問題がありますが「今でも「近所の絆の残る地域」と増田さんは強調します。

2つある小学校の1つ、浦里小学校は国から「コミュニティスクール」に指定されており、住民約150人が学校にボランティアとして入り、授業のサポートやアンケート集計、庭木の剪定、登下校の子ども達の見守りなど17種類のボランティア活動を行っています。民児協の

副会長の斎藤博さんもその一人で、算数の答えあわせなどのサポートや、遠足への付き添い、野菜の植え付けなど全活躍。学校へボランティアに行くようになって2年目。子ども達とつながりができ、道で会っても声を掛けてくれる」と明るく表情で話してくれました。「もともと

ここは、人と人の距離が近く、この取り組みをしたことで、さらに子どもたちが地域から大事にされていると実感できたことは大きい」と滝澤俊明校長。民児協の定例会には、小学校と中学校の校長、保育園の園長も毎回出席し、学校の行事や子ども達の様子を報告します。取材した日はインフルエンザや、いじめ・体罰についてなど、「地域の声は学校への応援歌」と率直に話す校長の姿が印象的でした。

民児協では、65歳以上の高齢者世帯への冷蔵庫に貼る「安心カード」の配布を積極的に行い約300戸に配布して来ました。また上田市社協のボランティア手作りのひざ掛けを、約150人のお年寄りに配布する活動や、各地区でのお茶のみサロン開催など、社会福祉協議会や地域包括センターなど他団体と連携し、子どもやお年寄りが住みよい地域づくりに貢献しています。



▲越戸地区、地域のお茶会「憩いの家」を月1回ずつ開催しています。



#### 表紙写真紹介 信州国際音楽村

#### すいせん祭 (3月下旬～)

3千平方メートルの畑に咲く10万本のすいせんと遠くに臨む浅間山が絶景です。お祭期間中は切花の販売や草木染の体験ができます。なお夏期はラベンダー祭が開催されます。



#### 撮影

上田市  
民生児童委員

百瀬 邦昭 さん

#### profile

定年退職した後、趣味として写真を始め、主に地域の風景をはじめ愛犬や花の写真を撮っています。又開設しているホームページへアップしたり楽しんでいます。民生児童委員1期目。

## 表紙写真募集!!

表紙を作品発表の場、地域の紹介の場にと考えています。日ごろ写真を趣味にしているや民生児童委員の方々の地域の風景やお祭りなどの風物詩を撮った写真を募集します。

デジカメで撮った作品の電子データをCDRに入れて、撮影者のプロフィール、写真の内容に関する説明を添えて県事務局までお送りください。詳細は県事務局(026-225-1613)まで。



早春の上高地（撮影：大野 善章さん）

## 「交通・災害遺児見舞金／就職激励金」のご案内

長野県社会福祉協議会

### 見舞金

50,000円（遺児1人につき）

父母の交通事故・災害事故時に支給

### 就職激励金

70,000円（遺児1人につき）

上記遺児の就職時に支給

#### 支給対象

##### ○見舞金

県内に住所を有し、満18歳に達した日以後の最初の3月31日までに、交通事故又は災害事故により、父または母が死亡、あるいは障害程度1級に相当する障害となった場合。

##### ○就職激励金

学校教育法に規定する中学校、高等学校及び専修学校高等課程のいずれかを卒業、又は中途退学して就職した場合。ただし、専門学校、大学等を卒業し就職した場合は対象外。

#### ■民生児童委員へのお願い

「見舞金」及び「就職激励金」の支給対象となる遺児に関して把握された場合は、最寄りの市町村社会福祉協議会までお知らせください。

#### ■申請手続き

「見舞金」及び「就職激励金」の申請は、市町村社会福祉協議会が行います。

（原則として、事故発生の日から6ヵ月以内に長野県社会福祉協議会に申請書類等を提出。）

#### 【交通事故】

道路交通法に規定する車輛及びその他の交通機関（鉄道、航空機、船舶等）の運行事故。

#### 【災害事故】

風水害等の天災、火災、就業上及び人命救助等の協力援助に伴う事故。

また上田市川西地区の学校と民生児童委員のかかわり方は、多いに参考になります。校長先生が、定例会に毎回参加され、学校の話をしてくださるとは驚きました。

あと8カ月余りで、今回の任期が終わります。これからの民生児童委員活動のあり方を考える時期になりました。各委員が活動しやすいように、どうすればいいでしょうか。今の時代に合う思いきった変革も必要ではないでしょうか。各地域の特色を残して、変えていく。行政、社会福祉協議会、そして民生児童委員協議会3者がしっかりと話し合いをしなければと思います。

（守屋輝代）



編集委員／ 熊井 文弘・守屋 輝代・小平 實・小林 善則